

## 第 40 回 エクソンモービル音楽賞 邦楽部門

### 近藤 乾之助 (こんどう けんのすけ)

能楽 宝生流 シテ方

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 5-23-8  
Tel: 03-3915-1376 / Fax: 03-3915-6611

#### 贈賞理由

近藤乾之助氏は宝生流の能シテ方である。名人として知られた父の故・近藤乾三の薫陶を受けて、戦前に 5 歳から子方として活動を始め、戦後 18 歳になってから、シテとして活動を開始した。近藤氏が、多くの優れた能楽師の演奏からも学んで獲得した優れた演奏技能と格調高い様式感をもって、現代まで、極めて活発な活動を続けていることは、宝生流にとって、また、広く邦楽界にとって、極めて重要な意義をもつ。2004 年には、能の最高の秘曲の一つ(関寺小町)を、番囃子(座ったまま全曲を演奏する形)で上演したが、これは宝生流では 101 年ぶりのことである。近藤氏が自ら形成してきた端正で集中力のある魅力的な演技は、これからも、多くの聴衆を伝統音楽にひきつけるであろう。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

#### 略歴

1928 年生まれ。父近藤乾三の稽古を受け、1933 年、5 歳で初舞台 鞍馬天狗 の稚児をつとめる。1935 年、十八世宝生英雄先生に入門し、1937 年より十七世宗家宝生九郎先生に師事。1946 年、18 歳で初シテ 吉野静 をつとめる。1947 年より野口兼資先生に師事。1948 年頃より観世寿夫氏、元正氏、栄夫氏、静夫氏らと親交を結び、共に能の稽古に励む。絵画、文楽、洋楽、映画、朗読など様々な分野にも関心を深め、日々研鑽を重ねる。1972 年に重要無形文化財「能楽」総合指定保持者となる。1976 年 7 月に第 1 回“近藤乾之助試演会”を開催して多くの演目に新しい光を当てつつ現在に至る。1996 年より社団法人宝生会の理事をつとめる。これまでの演目として、奥伝 11 番、別伝の 翁 、 道成寺 、三読物の安宅 勧進帳 、正尊 起請文 、木曾 願書 のほか、三老女の 檜垣 を素謡で、姨捨 を能で演じ、また 関寺小町 を番囃子にて宝生流では 101 年ぶりに公演し、大きな反響を呼んだ。

#### 主な受賞歴

1992 年	芸術選奨文部大臣賞
1995 年	紫綬褒章
2000 年	日本芸術院賞
2001 年	観世寿夫記念法政大学能楽賞
2004 年	旭日小綬章